

第7章 社会貢献

近年、本学では改革を推進し、「地域が求める大学」、「時代が求める大学」を目指し、積極的な社会貢献を行い、確実に実績を重ねてきた。

本学の社会貢献は、『日経グローバル』No.79（2007年7月2日発行）の特集「全国大学調査地域貢献度ランキング」において、総合ランキング19位、女子大学ランキングでは1位であった。教育学科を中心とする幼・小・中・高向け講座を継続的に実施していること、大学の地元である須磨区との包括提携締結（2006年3月）や、大学に隣接する須磨離宮公園とのキャンパスパーク連携（CP連携）締結（2006年12月）、更には、ポートアイランドキャンパスが位置する神戸市中央区との地域連携協定が2008年1月に締結され、地域貢献活動が活発であることなどが特徴である。

本学は、学生のボランティア活動が活発であるのはもちろんのこと、教員による教育研究上の成果を市民へ還元する取り組みも活発である。そのなかの一つとして、本学では利便性の高い三宮教育センターにおいて、本学教員及び外部講師による語学講座や文学史学、古典芸能、現代詩文庫等の本学特有の分野を含む独自の公開講座を多数開催し、市民の生涯学習の機会を提供することに寄与している。

一方、企業等との連携は、主に家政学部の教員が受託研究や共同研究を行っているが、少数にとどまっている。企業等との連携については、事務組織の整備や知的財産に関する規程の整備等、幾つかの課題を抱えている。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

目標

- ◎教職員による地域連携推進委員会を設置し、大学の特性を生かした目標を設定し、実施計画を作る。
- ◎地域連携推進委員会は、年度毎の実施状況の評価と次年度の計画修正、目標の見直しを行う。
- ◎自治体との連携強化と産学連携の分野開拓のための広報活動を積極化する。
- ◎地域連携の推進をサポートする体制の確立を目指す。

A. 社会への貢献

必須・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

[現状の説明]

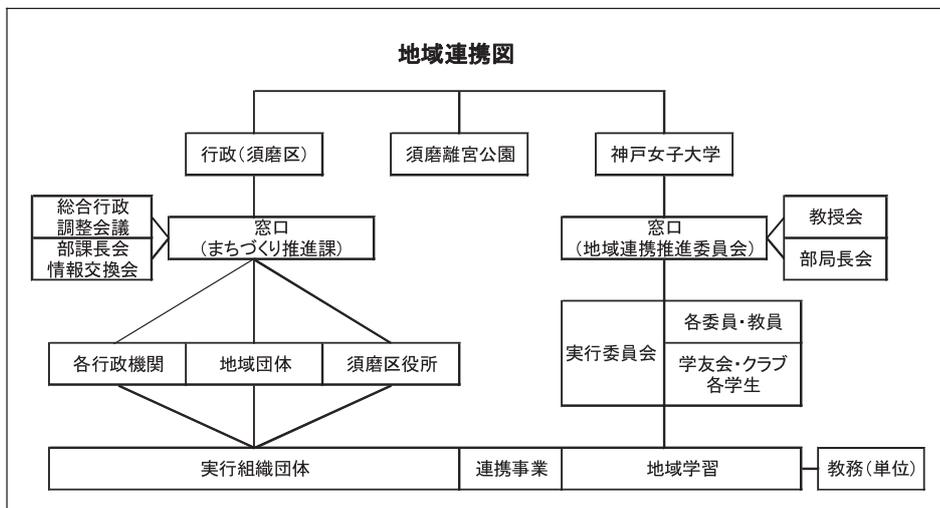
本学は「地域連携推進委員会」を設置し、地域社会との文化交流を目的とした教育システムの運営を行っている。また、学校・幼稚園・地域等でのボランティア活動を教育システムに取り入れている。

1. 地域連携

地域連携推進委員会を中心に地域社会との連携事業を推進し、地域活性化に貢献すると共に、学生の地域学習システム構築を目指している。地域連携推進委員会は2006年に設置され、委員は各学科から推薦された委員各1名と学長が委嘱した委員、学生課職員、本学の学生組織である学友会メンバーからなる（『神戸女子大学地域連携推進委員会規程』参照）。地域連携は神戸女子大学（窓口：地域連携推進委員会）と須磨離宮公園、神戸女子大学（窓口：地域連携推進委員会）と須磨区（窓口：まちづくり推進課）を軸に展開している（図7-1参照）。神戸市須磨区とは、2006年3月、地域の再生と大学の変革を持続的に実現するために「地域連携に関する包括協定」を締結した。隣接する須磨離宮公園とは、2006年12月、学生の教育の充実を図ると共に、須磨離宮公園の活性化と地域の活性化に貢献することを目的として全国初の「キャンパス・パーク連携（CP連携）」を締結した。

また、ポートアイランドキャンパスにおいては、大学の知的・人的資源の「まちづくり」への活用、市民への情報提供による活性化を図ることを目的に、神戸市中央区との地域連携協定が2008年1月に締結された。

図 7-1 神戸市須磨区との地域連携図



(1) 地域連携活動

神戸市須磨区との地域連携図に示す行政機関、地域団体、須磨区役所等が主催する事業の実行組織団体からのイベント等の提案事項は、地域連携事業申込書に記載された内容を本学の地域連携推進委員会が検討し、その可否及び地域学習の科目の適正度を判断する（『地域連携事業申込書』参照）。本学の提案も須磨区のまちづくり推進課を通して検討される。参加に当たっては、各イベントごとに教員または職員が担当者・責任者としてその任を果たしている。2007年4月～2008年3月の1年間の連携事業は83件あり、教職員及び地域学習履修者、レクリエーション・インストラクター資格取得を目的とした学生、児童英語教育ゼミ生、ローターアクト学生等が参加した（神戸女子大学ホームページ（地域連携の歩み）参照）。主な内容は「JR須磨駅前秋祭り」、「南須磨公民館サマースクール」等のイベントのスタッフ、「須磨海岸クリーン作戦」、「地域安全マップづくり」等のまちづくり、「英語で遊ぼう（北須磨小学校英語クラブ）」、「西須磨小学校キャンプ」等の学習支援・人づくり等である。

神戸市中央区との地域連携では、同区主催の行事や福祉活動への参画、食育・幼児教育や福祉等に関する大学の教育・研究分野を活用した市民への情報提供、オープンカレッジによる社会人教育の推進等を行っている。

(2) キャンパス・パーク連携（CP連携）

須磨離宮公園との「CP連携」により、本学の教職員・学生は須磨離宮公園を入場料無しで利用できることになった。新入生オリエンテーションでは、2007年度から神戸国際教養学科が須磨離宮公園の茶室を使って、4月下旬の土曜日に「学外1日オリエンテーション」を行っている。また、教育学科幼児教育コースが主催して毎月1回土曜日に行っている「子育て広場“あい・あい”」や「幼児体育」等の授業に有効活用している。

授業以外には、須磨離宮公園が主催する「月見の宴」等のイベントにコーラス部や茶道部の学生が協力参加したり、「神戸女子大コベリーヌ音楽祭」を企画出演するなど、年間を通してさまざまなイベントに協力・共催・企画・出演している（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、地域貢献活動、まちづくり、神戸市須磨離宮公園の催し参照）。

(3) ゼミ・学友会・クラブ・同好会等の学生による地域活動

児童英語教育のゼミ生が「英語で遊ぼう」を企画して近隣の北須磨小学校へ出かけたり、学友会が大学周辺で毎月1回「クリーン作戦」を実施したり、茶道部が毎月1回「ふれあい喫茶」（地域のお年寄りとの交流会）を隣接する高倉台地域福祉センターで開催したり、キッズリーダー部が毎月1回「おねえさんと遊ぼう」（小学生対象）を神戸諏訪山児童館で開催するなど、定期または不定期に地域との交流を深めている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、地域貢献活動、学友会・クラブ・同好会の活動参照）。

2. ボランティア活動

学校観察実習、地域学習、親子通所センター等のボランティア活動が授業科目として取り入れられている。また、授業科目ではないが、幼稚園・保育所ボランティア等を保育現場での体験活動を通して幼稚園教諭・保育士としての資質向上を図るものとして位置付け、実施している。

(1) 学校観察実習（スクールサポーター）

学校観察実習は神戸市、芦屋市、伊丹市、大阪市等が募集するスクールサポーター（神戸市は神戸市スクールサポーター、芦屋市は芦屋市ボランティア指導補助員など市によって名称は異なるが、以下、「スクールサポーター」と示す。）や北須磨小学校、高倉台小学校等の近隣の小学校との連携によるボランティア活動が、学校現場に出向き、児童の行動や考え方

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

を観察、理解し真の教師像を学ぶ場として位置付けられている。この科目は「学校観察実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」からなり、2年次生以上の学年から履修可能で、教育学科の選択単位としてⅠ、Ⅱ、Ⅲそれぞれ通年で2単位取得できる。学生は事前に登録し、5月末～6月初旬から毎週1回程度、または夏休みや春休みに小学校へ行き、観察記録、期末レポートを提出する（『2008年度履修の手引』p.55,57、『平成20年度授業計画書 SYLLABUS（文学部）』p.356,397,421参照）。スクールサポーター制度は2002年から始まり、2008年度には、神戸市のみでなく、近郊の市にも活動の場を広げている。2006年度141名、2007年度168名、2008年度156名の学生が参加した。

(2) 地域学習

「地域学習」は全学共通教養科目の総合科目の中で、学生がキャンパスを出て積極的に地域社会の人と交わり、ボランティア活動を通して地域社会に生きることを体験的に学ぶ学外の学修として位置付けられている（『2008年度履修の手引』p.23、『平成20年度授業計画書 SYLLABUS（文学部）』p.26、『平成20年度授業計画書 SYLLABUS（家政学部）』p.24参照）。履修する内容は、地域社会の行事・活動に参加することであるが、学生が参加する行事・活動は、それぞれの指導・担当教員と学内の地域連携推進委員会の承認を得ることとしている。学生は履修登録し、行事・活動に15回参加した上で、その活動記録及びレポートを担当教員に提出し、単位認定（通年、2単位）を受ける。2007年度は、「100万人のキャンドルナイト：離宮公園スタッフ6月16日」、「須磨海岸クリーン作戦6月24日」等、27の行事・活動項目が用意され、2007年度30名、2008年度93名の学生が履修登録して、2007年度には、40名が単位を取得した。

表7-1 学校観察実習参加人数表（教育学科）

	年度 内 容	2006			2007			2008			専攻科
		2	3	4	2	3	4	2	3	4	
1	神戸市スクールサポーター	10	41	32	7	66	35	19	64	48	4
2	神戸市スクールサポーター (体カアップ)					3			6		
3	神戸市特別支援教育					7	21		3	3	
4	芦屋市ボランティア指導補助員		7		1		2				
5	伊丹市	2	2		2	2			1	2	
6	姫路市メンタルヤングアドバイザー			1	1		2		2		
7	明石市	1				1				2	
8	京都市学校支援ボランティア		1				1			1	
9	堺市インターンシップ			1	1						
10	富田林市								1		
11	北須磨小、高倉台小、西須磨小、東須磨小、 横尾小など近隣の小学校へ スクールボランティア	22	7	14	16				2008年はスクールサポーターとしてカウント		
	合 計	141			168			156			

注) 2008年度5月1日現在

(3) 親子通所センター（愛称：子育て広場“あい・あい”）

親子通所センター（愛称：子育て広場“あい・あい”）の活動は、幼児教育コースの専門科目「発達理解実習」と連動し、毎週の授業とは別に、月1回の割合で土曜日に開催している（『2008年度履修の手引』p.55、『平成20年度授業計画書 SYLLABUS（文学部）』p.402参照）。

子育て広場“あい・あい”は、地域から子育て広場へ通ってくる親子に幼児教育の教員や学生が子育て支援をすると同時に、将来幼稚園教諭や保育士を目指す学生が実践的に学ぶ場として2005年、本学図書館のアートギャラリーに設立された。2007年には大学敷地内に「あい・あい farm」(圃場)ができ、野菜や果樹を栽培したり、隣接する須磨離宮公園と連携して施設を活用したりして、地域に根付いた活動を展開している(『2008 Guide Book(大学案内)』p.79、神戸女子大学ホームページ:地域連携・生涯学習、地域貢献活動、人づくり、親子通所センター、『子育てひろば「あい・あい」』、『子ども理解・保護者理解・コミュニケーション力』参照)。

2007年度は7回開かれ、子ども173名、保護者101名、教員37名、学生205名(いずれも延べ人数)が参加した。

(4) 幼稚園・保育所ボランティア

幼稚園・保育所ボランティア・自主活動は、教育や保育の本質を実践の場を通して肌で感じ取り、幼稚園教諭・保育士としての資質向上に結びつけることを目的に、2006年度から開始した(『平成20年度 保育に関するボランティア・学外自主活動について』参照)。2006年度は神戸市、明石市等近隣6市の公立・私立幼稚園に31名の学生が参加した。2007年度は神戸市、明石市に加えて計12市の公立・私立幼稚園、公立・私立保育所に60名が参加した。

表7-2 幼稚園・保育所ボランティア参加状況一覧表

年度	2006			2007					2008				
	幼・公	幼・私	小計	幼・公	幼・私	保・公	保・私	小計	幼・公	幼・私	保・公	保・私	小計
大阪市				2	2			4		1			1
大東市					1			1		1			1
東大阪市					2			2					
豊中市							1	1					
西宮市										5			5
尼崎市										1			1
神戸市	4	14	18	12	15	7	1	35	6	21	1	2	30
淡路市						1		1					
明石市	4		4	6				6	3			1	4
加古川市	2	1	3	1				1		1			1
西脇市				1				1	1				1
高砂市	1		1										
姫路市	4		4	4	1	1		6	1				
福崎町	1		1										1
徳島市				1				1					
山口県					1			1					
合計	16	15	31	27	22	9	2	60	11	30	1	3	45

注) 2008年度5月1日現在

(5) 私立幼稚園向けインターンシップ

私立幼稚園向けインターンシップは、社団法人大阪府私立幼稚園連盟が「私立幼稚園教員の業務を幅広く体験する制度」として、2005～2006年度をテストケース、2007年度から本格導入した。2007年度は大阪府の私立幼稚園26園と養成校11校の間で実施され、神戸女子大学からは3年次1名、4年次生4名計5名が参加した。インターンシップ(就職支援)講

座に関する規定では、3年次対象と定めているため、3年次1名が自由単位として1単位が認められた（『2008年度履修の手引』p.206参照）。

(6) 神戸市立幼稚園ボランティア活動

幼稚園での教職を目指し、保育現場での体験活動を希望する大学生・短期大学生が、幼稚園現場で一定期間、保育活動の補助や幼稚園行事への参画等を通じ、幼稚園でのさまざまな業務を体験することによって、幼稚園の活性化・特色化、園児の多様な人との係わり合いの機会を増やすと共に、幼児の成長過程の観察を通じ、幼児教育の能力を高めることを目的に、2008年10月からスタートした。この活動に参加するに当たっては、神戸市教育委員会と神戸女子大学の間で「神戸市立幼稚園ボランティア活動の実施に係る協定」を締結している。

[点検・評価—長所と問題点]

今、大学には積極的に社会貢献を行い「地域に開かれた大学」になることが求められている。本学は「地域が求める大学」を実現するために「神戸女子大学地域連携推進委員会」を設置し、積極的に活動している。

従来から地域交流や地域貢献は行ってきたが、大学が組織的に地域サービスを提供する組織ができたことにより、地域との連携を深めると共に、学生にとっては本や講義からだけではなく、社会が当面する問題を肌で感じて地域で積極的に役割を果たすことから学修できることとなった。

「スクールサポーター」、「地域学習」、「親子通所センター」、「幼稚園・保育所ボランティア」は、いずれも自治体や地域、学校・幼稚園・保育所と協定を結び、教育システムに取り入れているものである。この内、スクールサポーターは学校観察実習として、地域学習は全学共通教養科目として、親子通所センターは発達理解実習科目と連動して、単位認定をしている。スクールサポーターや親子通所センター、幼稚園・保育所ボランティアは、体験を通して教育現場を知り、学内で学ぶ教育理論を実践的に学ぶ場として役立っている。地域学習は本や講義だけでなく、地域の抱えている問題を知り、積極的に地域に貢献することによっても学修できることを学ぶ良い機会になっている。地域からの学生ボランティア派遣要請は増加しているが、学生自身は大学での授業受講や試験を優先させるため、実際には時間的な問題により参加が難しいケースも少なくない。

[今後の改善・改革に向けた方策]

大学が地域社会の一員になるためには、地域の主催するイベントのスタッフとして参加したり、事業を企画して共催するなど地域との交流を活発にすることが出発点である。さまざまな取り組みを行い、その中から醸し出されたものが、真の実績となる。そのためには地域連携推進委員会を窓口として、更に地域との連携を強化することである。それと同時に、企画立案能力のある人を育成していくことが課題である。

学生がスクールサポーターや幼稚園・保育所ボランティア等に参加するには、最低半日の時間が必要である。授業の時間割を組むに当たっては、その時間が確保できるようにできるだけ配慮はしているが、実際には教員免許状や保育士資格を取得するための必修科目が多いため難しいケースが少なくない。学生には、将来本当に必要な資格の取得を選択するよう指導すると共に、開講科目の見直しを早急に行う。

必須・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

[現状の説明]

主な公開講座は、「オープンカレッジ」、「公開市民講座」、社会人学び直しニーズプログラム「子育てに一段落した女性やペーパーティーチャーの家庭科教員・臨時講師への道を拓くための講座」、社会人学び直しニーズプログラム「再チャレンジ支援講座」、大学連携「ひょうご講座」、「介護・介護予防教室」等である（『大学基礎データ表10』参照）。

本学は公開市民講座を運営する「神戸女子大学公開講座運営委員会」とオープンカレッジを運営する「オープンカレッジ運営委員会」（行吉学園全体の委員から構成する委員会）を設置し、実施計画の策定を行っている。

1. 公開市民講座

「神戸女子大学公開市民講座」は、地域への貢献、地域とのコミュニケーションを目指して1981年度から開講し、2008年度で27回目を迎えた。2003年度以降は、春季(5回連続)・夏季(2回)・秋季(5回連続:京都府和東町へ出張講座)の3期に分けて講座を提供している(表7-3参照)。対象は、一般市民・学生・高校生(男女問わず)で、無料で提供している。参加募集は、ポスター掲示、チラシ配布、ホームページ上で行っている。この公開市民講座は、本学の「公開講座運営委員会」がテーマと講師の選定、運営等の実施計画を策定し、参加申込み等の事務局は本学教務課が担当している（『神戸女子大学公開講座運営委員会規程』参照）。

表 7-3 公開市民講座年度別テーマ

年度	時期	テーマ
2004	春季	今を生きる
	夏季	あなたの体力発見
	秋季	今を生きる
2005	春季	「神戸物語」ー時空を越えてー
	夏季	あなたの体力発見
	秋季	新しい時代の健康と福祉
	冬季	「神戸物語」ー時空を越えてー
2006	春季	神戸の中の世界
	夏季	あなたの体力発見
2007	春季	衣・食・住を科学する
	夏季	あなたの体力発見
	秋季	衣・食・住を科学する
2008	春季	昭和は遠くになりにつけり
	夏季	あなたの体力発見
	秋季	昭和は遠くになりにつけり

2. オープンカレッジ

本学の所属する行吉学園全体が提供している「オープンカレッジ」は、三宮教育センターを会場として、2002年度に開始し、現在まで継続的に実施している（p.240表7-4、行吉学園ホームページ:神戸女子大学・神戸女子短期大学2008年オープンカレッジ参照）。内容は、語学講座、教養・健康講座、特別講座（例えば古典芸能研究センターと共催の「平家残照」、「須磨松籟」、「おきなわ-祭りと祈り」等）と多岐にわたっており、2006年度は114講座、2007年度は163講座を開講した（p.240表7-4参照）。これらの講座は教育・研究資源を地域に還元する観点から、

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

神戸女子大学と神戸女子短期大学の教員以外にも学外の関係者を広範囲に講師として選定している。受講者は20歳代～80歳代まで幅広いが、受講者の70%は50歳代～60歳の主婦である。開講時間は受講者の都合に合わせて受講できるように、午前、午後、夜間と多様な時間帯を設定している。本講座は有料で、受講料は講座により異なっている。

参加募集は、チラシ配布（新聞折り込みを含む）、DM発送（既受講生）、本学ホームページ、神戸市広報紙（マナビスト）、ポスター掲示等にて行っている。開講講座数、参加者数共に年々増加している。

このオープンカレッジの運営は、行吉学園全体の教職員によって構成される「オープンカレッジ運営委員会」が担当し、実施計画を策定している。定期的に講座内容や運営に対する受講者アンケートを実施し、開講講座内容や運営計画に反映させている。事務局は、行吉学園総務部事業課が担当している。

表 7-4 神戸女子大学・神戸女子短期大学「オープンカレッジ」参加者数

年度	時期	講座数	延べ参加者数
2003	春期	12	132
	夏期	2	21
	秋期	16	195
	冬期	13	142
	合計	43	490
2004	春期	20	183
	夏期	2	18
	秋期	24	208
	冬期	19	153
	合計	65	562
2005	春期	24	229
	夏期	9	63
	秋期	25	268
	冬期	23	198
	合計	81	758
2006	春期	34	341
	夏期	15	142
	秋期	38	510
	冬期	27	403
	合計	114	1,396
2007	春期	45	669
	夏期	20	216
	秋期	57	777
	冬期	41	632
	合計	163	2,294

注) 春期 4～6月、夏期 7～9月、秋期 10～12月、冬期 1月～3月プレスタートとして2002年度冬期より開始

3. 大学連携ひょうご講座

「大学連携ひょうご講座」は、「兵庫県内の4年制全大学等と兵庫県が連携することにより、さまざまな分野におけるアカデミックで、専門的な大学教育レベルの講座を広く提供し、県民の皆様の生涯学習の一層の充実に役立つこと」を目的として、1997年度より開始された有料の生涯学習講座である。ひょうご講座は実施大学キャンパスで開講されるオープンカレッジと兵庫県民会館を開講場所とする独自科目・学外科目からなる（『ひょうご講座 2008年度募集要項』参照）。なお、この講座に2/3以上出席すれば、理事長（兵庫県知事）名による修了証が発行される。

本学は、2002年度より継続的に講座を開講している。各年度により、独自科目或いは学外科

目のいずれかの方法により多様なテーマの講座を提供している（表 7-5 参照）。

この講座は、「ひょうご大学連携事業推進機構」により運営されており、本学は兵庫県との連携事業に参加する形での講座提供である。本学内では、教育研究部がコーディネーターの役割を果たしている。

表 7-5 「大学連携ひょうご講座（神戸女子大学による開講科目）」と申込人数

年度	時期	科目	テーマ	申込人数	回数
2002	春期	学外	豊かなまちづくりー未来への提言ー	13	9
2004	春期	独自	高齢社会の福祉課題	50	8
2005	秋期	独自	少子高齢社会を考える	22	10
2006	春期	独自	現代社会と子ども	9	12
2007	春期	学外	今こそ家政学ー 21 世紀の暮らしを考えるー	11	10

注 1) 独自科目：県内複数大学教員による共同研究の成果を生かした講義

注 2) 学外科目：県内各大学主催による出前の公開講座

4. 家庭科教員学び直しプログラム（職業教育）

文部科学省委託事業「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の一つである。既に家庭科教員の免許状を取得しており、教員を退職後再度教壇に立つことを希望する女性やパーティーチャーが教育機関法規、最近の学校教育の課題、実験・実習、新しい指導方法等を学び直し、家庭科教員・臨時講師になる道を拓くための講座である。実施期間は第Ⅰ期（2007年10月～2008年3月）、第Ⅱ期（2008年4月～2008年8月）、第Ⅲ期（2008年9月～2009年2月）の3期で、1回の受講生の定員は20名である。実施場所は神戸女子大学須磨キャンパスで、土曜日の16日間（55.5時間）が設定され、本学の教員・外部講師がその任に当たっている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、家庭科教員学び直しプログラム参照）。

5. 再チャレンジ支援講座（職業教育）

文部科学省委託事業「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択された「フリーター・ニート・主婦のための再チャレンジ支援講座」。講座は再チャレンジ支援運営委員会運営綱領に基づき、当該委員会が運営しているが、「生きがいしごとサポートセンター神戸東・神戸西」、「神戸市男女共同参画センター」等の地域団体や地域のキャリアアドバイザーの協力を得ている。受講対象は「就職意志のある社会人で、定職についていない女性」、「一度家庭に入ったが、もう一度働きたいと考えている女性」、「経済的理由で再就職に必要な技能を身につけたい女性」等。講座の内容は、(1) キャリアデザインの必要性、(2) 企業の求める求人像、(3) 自己分析、(4) 施設活用法、(5) 履歴書の書き方、(6) 女性の知っておきたい労務知識、(7) ビジネスマナー、(8) 接遇訓練、(9) 模擬面接、(10) PC等で総学修量は49.5時間である。第1回チャレンジ支援講座（2007年度）には定員40名に対し、131名が応募し、受講決定者40名の内36名が修了した。第2回目は2008年5月19日～7月16日、第3回は2008年10月6日から開催され、40名（応募者94名）が受講している。場所は三宮教育センターで実施しており、受講料は7,000円である（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、再チャレンジ支援講座参照）。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

6. 介護予防と介護教室

「地域で相互に支え合う」をキャッチフレーズに、2006年度からポートアイランドの健康福祉学部が地域の住民を対象に開催している。コースは二つあり、第1コースは認知症予防と対応の仕方、栄養指導と調理、口腔ケアの実際、第2コースは介護技術で定員は30名である（『介護予防と介護教室－地域で相互に支え合う－』参照）。2006年度は15名、2007年度は21名が受講した（『大学基礎データ表10』参照）。

[点検・評価－長所と問題点]

神戸女子大学公開講座運営委員会は、大学の研究成果を公正かつ適切に、学内・外に公開し、更に、地域社会と連携・交流を図ることを目的に設置され、地域の人々向けの講座が開講されている。公開市民講座の歴史は古く1981年から開講し、2008年で27回目であるが、各学科の持ち回りで開催してきた経緯もあり、各学科の講演者が一巡した頃には、テーマのマンネリ化、運営方法等の問題点が出てきた。1994年に公開市民講座検討委員会が発足し、「生涯学習」の観点から運営方法、テーマ、開催時期、対象等について検討し、地域の人々のニーズを積極的に収集し、教養講座の他に、健康に対する関心に応じて「あなたの体力発見」等の講座も取り入れてきた。また、現在京都府の和束町で開いているように、地方の教育委員会と共催で出張開講することになった。和束町では、教育委員会のホームページで、講演者の了解を得た上で公開講座の内容を公開している。

オープンカレッジは、講座数・参加者共に年々増加し、2007年は163講座、2,294名の受講者になっている。これは市民のニーズに答えるべく多様な講座が用意されていることと、受講者の都合に合わせて受講できるように、午前、午後、夜間と多様な時間帯を設定していることによる。

再就職のための「家庭科教員学び直しプログラム」と「再チャレンジ支援講座」は、他の講座と違って、職業教育講座である。中高年の再就職が難しく、フリーター・ニートが増えている今日、社会から求められている講座である。これらの講座を修了して就職できた人があり、この実績は大きな社会貢献である。

介護の領域は地域との結びつきが非常に重要である。健康福祉学部が地域住民を対象に開講している「介護予防と介護教室」は、高齢化社会に向けて意義ある取り組みである。

[今後の改善・改革に向けた方策]

公開講座委員会、オープンカレッジ運営委委員会を窓口として、地域が必要とする企画、時代が必要とする企画を綿密に練って実行していくこととする。生涯学習の観点からさまざまな受講者を想定し、教養講座以外にも、ゴミ処理、料理、PCやインターネットの利用法等の実用講座を用意する。そのためには、学部・学科・個人の専門分野を生かした企画を具体的に提示すべきである。

必須・教育研究の成果の社会への還元状況

[現状の説明]

研究成果の社会への還元例として次のようなものがあげられる。

1. 古典芸能研究センターによるもの

「古典芸能研究センター」は、古典芸能に関する調査・研究、ならびに社会への学的貢献を目的として、2001年4月に開設され、能楽・近世芸能・民俗芸能等の所蔵資料の公開及び展示、データベースの公開、さまざまな特別公開講座を行っている（神戸女子大学ホームページ：古典芸能研究センター参照）。特に特別講座には、専門研究者と一般市民の双方から高い評価が与えられており、参加者は兵庫県内や近畿圏はもちろんのこと、東京やその周辺をはじめ全国規模で認められる。

2. オープンリサーチセンターによるもの

家政学研究科の次の四つのプロジェクト「アジアの気候と衣服の吸湿性に関する環境生理学的研究」、「アジアの小麦粉製パン性に関する食品加工学的研究」、「東南アジア地域における栄養素・非栄養素の生理学的研究」、「アジア大陸の環境地理・地学的研究」が文部科学省の「平成13年度オープンリサーチセンター整備事業」に選定され、過去3回のシンポジウムを開き、研究成果を社会に還元している。

3. 家政学研究科によるもの

- ・神戸「食と健康」研究会を立ち上げ、9回を数える地域向け講演会を実施している。
- ・独立行政法人日本学術振興会による、「平成19年度ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に、神戸女子大学のプログラムが採択された。テーマは、「オリーブオイルで「元気」を研究する－ポリフェノールからホルモン、DNAまでを体験－」で、高校生等を対象に研究成果を還元した。
- ・腎臓病患者、糖尿病患者用の健康パンを研究開発し、事業化を目指して、関連企業で検討中であり、近い将来に当該患者のQOL向上に貢献できるものと思われる。
- ・科学技術振興機構（JST）の地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」に2006年、2007年と2年連続で採択されており（『教育研究部 Newsletter』第5号参照）、これらは近い将来事業化される可能性があるため、研究成果の社会貢献と位置付けることができる。

[点検・評価－長所と問題点]

以上のように、大学院担当の教員による成果としては、規模、内容と共に積極的に研究成果の社会への還元活動を実施していると言える。

[今後の改善・改革に向けた方策]

現状では、十分満足な社会貢献を行っていると考えられるが、より効果的な研究成果の社会への還元のためには、この活動を組織的に企画、運営するために、教育研究部のあり方を検討して、明確な戦略を示す必要がある。

必須・国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

[現状の説明]

地方自治体等の政策形成へ係っている教員は、各学部それぞれ相当数存在し、大学として貢献をしている。その状況を表7-6（pp.244-249）で示す。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

表 7-6 自治体等の政策形成への寄与の状況

政策に寄与する主な活動／文学部
平成 18 年度文化庁芸術祭執行委員会委員
一色の翁舞調査委員会委員 (伊勢市教育委員会)
大槻能楽堂理事
平成 19 年度文化庁芸術祭執行委員会委員
大阪市国際観光ルート構想委員会委員
日本芸術文化振興会 (国立劇場) 文楽研修委員
寝屋川市史編纂専門委員
日本芸術文化振興会 (国立劇場) 養成事業委員会委員
大阪文化賞・大阪芸術賞選考委員
大阪市芸術文化振興施策検討委員会委員長
日本芸術文化振興会 (国立劇場) 調査事業委員会委員
高山寺 (ユネスコ世界文化遺産: 古都京都の文化財、京都市右京区柁尾町) の経蔵典籍・文書総合調査団の一人として調査・研究・公刊等に従事
岡山日米文化協会評議員
兵庫県自治研修所講師
豊中市国民保護協議会の委員
兵庫県生田警察署の警察署協議会委員 (兵庫県公安委員会)
豊中市外国人市民会議 (議長)
財団法人とよなか国際交流協会評議員
豊中市人権文化のまちづくりをすすめる協議会委員
兵庫県中小企業振興公社月刊誌「ひょうご経済戦略」編集会議委員
本州四国連絡橋公団経営効率化懇談会委員
本州四国連絡橋公団事業評価監視委員会委員
兵庫県景気動向検討会アドバイザー・スタッフ
高砂市史編纂専門委員会 (委員長)
道修町資料保存専門委員
京都市市政史編集委員
高砂市史編纂専門委員
文部科学省文化庁「文化審議会専門委員」審議会委員
兵庫県文化財審議会委員
奈良県文化財審議会委員
香芝市文化財審議会委員
日本赤十字社救急員
相生市健康運動教室講師
赤穂市骨折予防教室講師
赤穂市生活習慣病予防教室講師
日本キャンプ協会インストラクター
神戸市市民救命士

コープ神戸シェイプアップ教室講師	第1章
兵庫県いずみ会（西播）講師	
滋賀県甲賀郡水口町ボランティア入門セミナー 講師	第2章
神戸市須磨区地域提案型活動助成企画審査委員	
兵庫県音楽団体評議会	第3章
神戸芸術文化会議	
兵庫県音楽活動推進会議	
北近畿ピアノコンクール審査員	第4章
兵庫県学生ピアノコンクール審査員	
三木市「みき情報化シンポジウム」CGアートコンテスト審査委員	
神戸市こども家庭センター児童虐待防止保護者カウンセリング事業カウンセラー	第5章
離宮公園学講座の実施	
兵庫県川西市立中央図書館協議会委員	第6章
高知市文化財保護審議会委員	
高知県環境影響評価技術審査委員会委員	
日本学術会議 IGCP 国内委員会委員	第7章
日本学術会議国際対応委員会 IGCP 専門委員会委員	
高知市社会教育委員会委員	第8章
高知市文化財保護審議会会長	
高知県産業廃棄物処理技術審査委員会委員	
日本学術会議 IGCP 国内委員会幹事	第9章
牧野植物園整備検討委員会専門委員	
日本学術会議国際学術協力事業研究連絡委員会 IGCP 専門委員会委員	第10章
日本学術会議国際学術協力事業研究連絡委員会 IGCP 国内委員会代表幹事	
神戸空港に係わる地震対策調査委員会委員	
宝塚市防災会議専門委員	第11章
四国地方土木地質図作成委員会（財団法人国土開発技術センター）委員	
兵庫県自然環境保全審議会委員	第12章
兵庫県自然環境保全温泉部会委員	
兵庫県文化財保護審議会委員	
明石市地形・地質調査委員会	第13章
近畿地方土木地質図改訂委員会（財団法人国土開発技術センター）委員	
日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員	第14章
ユネスコ／IUGS・IGCP（国際地質対比計画）プロジェクト No. 411 リーダー	
国立大学入学者選抜研究連絡協議会幹事	第15章
高知県産業廃棄物処理施設技術審査委員会委員	
兵庫県文化財保護審議会副委員長	
兵庫県国土利用計画審議会委員	基礎データ
揖保川流域委員会委員	
玄武洞公園整備検討委員	

大学入試センター新教育課程試験問題調査研究委員会委員
兵庫県環境審議会委員
兵庫県環境温泉部会委員
日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会委員
日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会 IGCP (地質科学国際研究計画) 小委員会委員
日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会 IGCP 国内委員会委員長
日本学術会議特任連携会員
兵庫県文化財保護審議会委員長
兵庫県国土利用計画審議会特別委員会委員
日本教育カウンセラー協会 理事 兵庫県支部 理事長
兵庫県カウンセリング協会 事務局長
神戸カウンセリングセンター 代表
神戸市特別支援教育 巡回指導員
兵庫県国公立幼稚園園長会常任理事・国公立幼稚園理事
兵庫県国公立幼稚園園長会副理事長
西宮市私立幼稚園連合会園長会副理事長
東播磨、明石市、川西市、伊丹市、高槻市等の研究会で講師、助言者をつとめる
近畿附属学校連盟副校長会会長
全国国立大学附属学校連盟副理事長
全国国立大学附属学校連盟顧問
神戸市立高倉中学校学習支援
加西市立善防中学校 (共同研究) ひょうご学力向上推進プロジェクト
伊丹市立緑丘小学校 (共同研究・市指定研究校) 算数科授業研究
広島市立小学校 視聴覚教育研究会 監事
広島県私立幼稚園連盟 研究部 研究員
全国保育士養成協議会 (近畿ブロック) 実行委員
(財) 21世紀ヒューマンケア研究機構 兵庫県音楽療法士養成講座 講師
兵庫県 こころのケアセンター ワーキンググループ アドバイザー
身体障害者療護施設「はんしん自立の家」音楽コンサート開催
(財) 全国産業教育振興中央会評議員、兵庫県産業教育振興会副理事長
兵庫県公立高等学校退職校長会 (柏樹会) 教育研究委員
政策に寄与する主な活動／健康福祉学部
京都市民生局青少年ルーム主催、第4回グループワーク講習会講師 (「出会いとグループワーク」, 「グループ内の人間関係」)
兵庫県社会福祉研修所で福祉事務所職員ケースワーク講習会講師 (「精神薄弱児者のケースワーク」)
京都市と京都市ユースサービス委員会共催の京都市青少年グループワーク講習会講師
滋賀県湖北町社会福祉協議会ホームヘルパー養成講座講師で「社会福祉援助技術」講義
兵庫県社会福祉協議会福祉人材センター主催「福祉職場就職フェア」総合相談員
コープこうべ協同学苑介護福祉コース (ホームヘルパー養成) 講師「老人福祉」「障害児 (者) 福祉」
兵庫県社会福祉協議会主催福祉ワーク講習会講師 (「社会福祉職場の現状」)

兵庫県社会福祉協議会、ホームヘルパー養成研修(3級課程)講師「サービス利用者の理解」、10月、11月にも講義	第1章
兵庫県社会福祉協議会主催、ケアワーク講習会講師(「福祉制度とサービス」)	第2章
兵庫県社会福祉協議会主催、学生のための福祉職場就職セミナー講師(「社会福祉職場が求める人材とは」)	第3章
兵庫県社会福祉協議会主催福祉ワーク講習会講師(「福祉職場の現状」)	第3章
兵庫県社会福祉協議会、ホームヘルパー養成研修(3級課程)講師「サービス利用者の理解」(姫路2回、西宮)	第4章
兵庫県社会福祉協議会、ホームヘルパー2級レベルアップ研修会講師「社会福祉制度とサービス」	第4章
兵庫県社会福祉協議会、福祉のしごと講習会講師「社会福祉従事者にいま求められているもの」	第4章
兵庫県社会福祉協議会主催、福祉職場への就職セミナー講師「福祉職場をめざすあなたへ求められる人材とは」	第5章
兵庫県社会福祉協議会社会福祉総合研修システム検討委員会 委員	第5章
厚生労働省指定、日本介護福祉士養成施設協会近畿ブロック介護教員講習会講師「研究方法」(滋賀文化短期大学)	第5章
兵庫県社会福祉協議会福祉人材センター運営委員会 委員(平成18年を除く)、平成15年4月より委員長	第6章
神戸市介護保険施設等施設整備懇話会 委員	第6章
兵庫県民間社会福祉事業退職年金共済運営委員会 委員	第6章
兵庫県社会福祉協議会社会福祉研修委員会 副委員長	第7章
神戸市障害程度区分判定審査会 副会長	第7章
兵庫県社会福祉協議会 福祉人材の確保と定着に関する調査研究委員会委員	第7章
兵庫県社会福祉協議会、福祉の職場就活応援セミナーのパネルディスカッション「福祉職場の魅力と就職活動」コーディネーター	第8章
兵庫県社会福祉研修所、社会福祉援助技術研修(基礎)講師「社会福祉援助技術における具体的手法」	第9章
兵庫県社会福祉研修所、社会福祉援助技術研修(基礎)講師「事例研究～社会福祉援助技術の展開の仕方～」	第9章
厚生労働省指定、日本介護福祉士養成施設協会近畿ブロック介護教員講習会講師「研究方法」(夕陽丘学院)	第10章
兵庫県社会福祉研修所、社会福祉援助技術研修(基礎)講師「社会福祉援助の仕組みについて」	第10章
兵庫県社会福祉研修所、社会福祉援助技術研修(基礎)講師「社会福祉援助の基本技術～コミュニケーション・面接～」	第10章
兵庫県社会福祉研修所、社会福祉援助技術研修(基礎)講師「事例研究～社会福祉援助の展開の仕方～」	第11章
兵庫県社会福祉協議会、福祉人材確保検討委員会委員	第11章
介護福祉士国家試験委員として介護技術の試験問題の作成	第12章
介護福祉士養成施設介護担当教員研修会・モデル授業 中央福祉学院	第12章
介護支援専門員としてケアプランの作成	第12章
京都市上京区都市計画推進委員として都市計画推進会議委員	第13章
大阪市介護認定審査会委員として要介護認定実施	第13章
社会福祉士国家試験委員として介護概論の試験問題の作成	第14章
痴呆性高齢者介護指導員として兵庫県・神戸市・鳥取県・福井県等において指導	第14章
「痴呆介護実務者研修カリキュラム見直し事業」厚生労働省、カリキュラムの見直し、テキスト作成編集委員	第15章
神戸市痴呆介護研修「楽しい授業」授業案について研修講師	第15章
神戸市痴呆研修プログラム作成委員として人材育成グループのプログラム作成	第15章
兵庫県福祉サービス第三者評価委員	基礎データ
兵庫県「持続可能な介護保険のあり方検討会」委員	基礎データ
社会福祉士国家試験委員	基礎データ

神戸市認知症ネットワーク代表委員
厚生労働省平成15年度老人保健事業促進ワークショップ「認知症ケアにおけるリスクマネジメント」
芦屋市40年間の芦屋市史編集・編著 編集委員
芦屋市史専門委員「社会福祉・医療」の章担当
大阪府社会福祉協議会 社会貢献支援員スーパーバイザー
兵庫県生活保護ケースワーカー新人研修会講師
播磨町子育て支援センターボランティア養成講座講師
神戸市養護学校医療的ケア研修会医療チーム講師
兵庫県知的障害養護学校研究協議会・養護教諭部会教職員研修会「医療的ケア研修会」講師
明石市現任教員講習会養護教諭部会研修会「医療的ケアに関する研修会」講師
近畿知的障害養護学校研究協議会・養護教諭部会研修会「医療的ケア研修会」講師
第19回介護福祉士国家試験実技試験委員
大阪市西淀川区介護認定審査会審査委員
神戸市障害程度区分判定審査会委員
兵庫県精神医療審査会委員
岐阜県恵那市回想法センターにおける回想スクール実践
兵庫県社会福祉事業団「万寿の家」におけるスーパービジョン導入・コンサルテーション
大阪市国際協力大使
第16回介護福祉士国家試験実地試験委員
第17回介護福祉士国家試験実地試験委員
第18回介護福祉士国家試験実地試験委員
第19回介護福祉士国家試験実地試験委員
政策に寄与する主な活動／家政学部
文部省 高等学校学習指導要領（家庭）の改善に関する調査研究協力者
文部省 栄養教育カリキュラム作成に関する調査研究協力者
文部科学省 教科用図書検定調査審議会専門委員
特色ある神戸の教育推進アクティブプラン検討委員
文部科学省 教科用図書検定調査審議会専門委員
兵庫県立教育研修所運営協議会委員
兵庫県高大連携等推進協議会委員
特色ある神戸の教育推進アクティブプラン検討委員
兵庫県立星陵高等学校評議員
尼崎市城内高等学校教科用図書選定協議会委員
尼崎市立城内高等学校評議員
須磨区まちづくり協議会委員
神戸市政策提言会議委員
神戸市公園緑地審議会委員
奈良県クリーニング師およびクリーニング業務師研修会 講師
静岡県浜松工業技術センター研究評価アドバイザー
和歌山県工業技術センター研究課題審査委員

TJTTP-OECF (日本 - タイ技術移転プロジェクト) よりタイ王国へ技術指導
和歌山県工業技術センター客員研究員
(財) 神戸市民大学講座 (評議員)
兵庫県国際交流委員会主催「大学洋上セミナー兵庫98」に本学主催の前年度講師として神戸港から出発して中国を經由し、シンガポールまで10日間乗船した。その間、船上で必修科目「アジア・太平洋地域における食生活」、選択科目「ヒトの栄養と生理」について講義
独立行政法人日本学術振興会による科学研究費の社会還元のための小・中・高校生に対するプログラムのひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHIに、企画書(「オリーブオイルで『元氣』を研究するーポリフェノールからホルモン、DNAまでを体験ー)を作成して応募し、採択された
兵庫県スポーツ振興審議会委員
兵庫県教育委員会阪神北教育事務所、阪神地区学校給食研究協議会で「食と健康」の講演を行う
神戸市垂水区小学校PTA連合会副会長会で「家庭における食育」を講演
神戸市「第5回こうべ食育フェア」で神戸女子大学として参加し食育活動の紹介と食育推進を図る
兵庫県改良普及員資格試験員
フォーラム「女子学生と考える遺伝子組換え食品」企画委員
兵庫県栄養士会支部医療部会役員
社団法人 兵庫県栄養士会選挙管理委員
社団法人 兵庫県栄養士会全国病院栄養士協議会代議員
社団法人 兵庫県栄養士会地域委員
神戸市中央区保健所管内栄養士会会長
社団法人 兵庫県栄養士会選挙管理委員
兵庫県糖尿病協会(社団法人兵庫県栄養士会) 栄養部会会長
全国国立大学病院栄養部門会議委員
兵庫県糖尿病対策推進会議幹事
高知県調理師試験委員(食品学)
高知県調理師試験委員(調理理論)
高知県ニューフードテクノロジー協議会委員
高知県調理師試験委員(食文化概論、調理理論)
日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

[点検・評価—長所と問題点]

国や自治体等への政策形成に寄与している教員は限定されているものの、地域及び社会のために貢献している。

[今後の改善・改革に向けた方策]

教員各人の研究成果を社会へ還元するためにも、更に学外に対して自己の専門分野の成果を積極的に公表するために、地方自治体等が管理しているデータベースに積極的に係る努力が必要である。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

必須・大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性

[現状の説明]

本学は大学の施設・設備を学術研究、健康づくり、生涯学習、再教育、学習・子育て支援等の場として地域に提供している。

1. 学術研究

古典芸能研究センター

「古典芸能研究センター」は行吉学園発祥の地である三宮教育センターにあり、能楽資料の橘文庫をはじめ、古典芸能や民俗芸能に関する書籍・資料を幅広く備えた研究施設である。芸能に関連するさまざまな分野の資料を収集しており、個別の分野は勿論、より総合的な調査・研究の全国的拠点になっている。所蔵する図書・雑誌その他の資料は、学生・社会人を問わず、古典芸能研究センター閲覧室で利用でき、西日本では質量共に最高のセンターとして学内外の利用者が多い。諸機関からの資料利用も近年とみに増加している（『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』（創刊号）p.147、神戸女子大学ホームページ：古典芸能研究センター参照）。

2. 健康づくり

(1) ADL体力アップ講座

2002年度より神戸市保健所地域保健課とタイアップし、健康神戸21推進事業の一環として高齢者の健康づくり講座「ADL：Activities of Daily Living 日常生活動作活性のための体操講座」（名称「ADL体力アップ講座」）を開催している。この講座は本学の体育文化ホールとポートアイランドキャンパスを使い、第1、第3土曜日に本学の専任教員及び学生が担当している。対象者は一般社会人・学生・高校生であるが、60歳以上の高齢者が多く、2007年度は250名が登録している（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、地域貢献活動、健康づくり、健康神戸21推進事業ADL体力アップ講座参照）。

(2) フィットネス体操教室

阪神大震災後、身体を動かすことによって健康を取り戻すことを目的に、震災の翌年1996年から年間を通じて第1、第3土曜日に本学の体育文化ホールで始められ、今年で12年になる。対象者は一般社会人・学生・高校生で、ソフトエアロビクスとビッグボール体操、体力測定等を行い、本学の准教授、準研究助手（p.257）が指導している（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、地域貢献活動、健康づくり、フィットネス教室参照）。

(3) 公開市民講座「あなたの体力発見」

公開市民講座の一つとして、体育文化ホールの科学センターの機器を活用した講習会で、測定終了後に個人のデータをもとにして、本学の教員が健康づくりのガイダンスを行っている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、公開市民講座参照）。

(4) ふれあい給食

学生食堂を開放し、学生や教職員が地域の高齢者との交流を図り、閉じこもり予防や健康づくりに貢献することを目的に、プロジェクトチーム「神戸女子大学プロジェクトコスモス」と大学近くの高倉台地域の高倉台婦人会が協力し、給食サービス「ふれあい給食」を実施している。第1回目は2005年10月で、以後毎月1回「ふれあい給食」を開催し、2008年2月で26回目を終えた。対象者は高倉台地域に住む65歳以上の1人暮らしの方で、参加者は1回約30名である。学生食堂2階特別室を会場にして、本学教員、学生、地域団体が協力、役割分担している。食事だけでなく、茶道部、マンドリン部、コーラス部、手話部等の学生が協力してさまざま

まな催しを開いている（『2008年、駿河明子、女子大の学生食堂を利用したふれあい給食；超・高齢社会先取地“こうべ”の地域見守り活動』pp.46-47（神戸市保健福祉局介護保険課）、神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、地域貢献活動、ふれあい給食参照）。

3. 生涯学習

(1) 図書館

① 公開市民講座

公開講座の項で（p.239）示したように、図書館4階AVホールで開催している（2008年度神戸女子大学「公開市民講座」テキスト、神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、公開市民講座参照）。

② チャットルーム

「行吉学園・21世紀将来構想」の中の「開かれた大学づくり」の一環として、学外で活躍している人々を講師に招き、「コミュニケーションの場」及び「ゆとりの場」を提供することを目的に、図書館4階グループスタディ室を使って、年3～4回図書館が主催している。対象者は学生、大学院生、学内関係者、地域住民で、第1回目を2004年に開き、2007年11月に第11回目を終えた（神戸女子大学ホームページ：図書館参照）。

③ 図書館の地域開放

2004年11月より女性に限り、閲覧のみであったが、2005年11月からは図書の貸出も可能とし、男性にも門戸を開いた。利用人数は当初の26名から毎年増加し、2007年度は156名が利用した（神戸女子大学ホームページ：図書館参照）。

④ 高等学校の女子生徒への夏休み特別開放

「涼しくて静かな空間で勉強しませんか」と、高等学校の女子生徒を対象に、2008年8月4日～29日、図書館の自習室開放を行っている（神戸女子大学ホームページ：Important News参照）。

⑤ 地域住民の大学祭参加

2003年の大学祭で、近くの住宅地である「高倉台住民の方々との合同展」と題して美術部学生が高倉台自治会と協同で開催し、自治会出展作品は絵手紙150枚と油絵10点であった。また、2005年の大学祭には、「公募写真展」を写真部学生と高倉台自治会との協同で開催し、地域住民1名の作品を展示した。また、2007年の大学祭では「‘須磨トピア’：見直してみませんか、わが地域」と題して、郷土資料展示を行った。須磨区役所を始め、須磨歴史倶楽部、地域住民から提供された資料を展示し、約400名以上の見学者があった。

⑥ 須磨離宮公園学

文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業の一環として、須磨離宮公園との連携講座を開催した。須磨離宮公園及び須磨の歴史や自然を再認識すると共に、地域の人と協同して地域文化創造のオアシスとなるべき公園像を考えることを目的に、2007年10月20日から2008年2月23日まで計11回の講座が開かれた。講座は土曜日の午後本学図書館AVホールが使われ、その後須磨離宮公園を散策する方式で行われた（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、須磨離宮公園学 連続講座参照）。

(2) オープンカレッジ

公開講座の項で示したように、行吉学園が行っている「神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ」は、三宮教育センターで行っている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、オープンカレッジ参照）。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

 大学評価
 (認証評価)
 結果

(3) 英語演劇鑑賞

2005年度私学助成金（私立大学等経常費補助金特別補助）を得てスタートした「英語劇鑑賞会の夕べ」は、本学学生、地域住民、近隣高等学校の生徒、インターナショナルスクールの学生等を招き、毎年本学の体育文化ホールで開催されている。ロンドンよりプロフェッショナル劇団インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン（ITCL）を招き、シェークスピア劇の鑑賞会を開始して本年は4回目である。主催は文学部英語英米文学科であるが、大学・同窓会が後援する全学的な取り組みとして盛況である。

4. 再教育（職業教育）

(1) 家庭科教員学び直しプログラム

公開講座の項（p.239）で示したように、須磨キャンパスで行っている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、家庭科教員学び直しプログラム参照）。

(2) 再チャレンジ支援講座

公開講座の項で示したように、三宮教育センターで行っている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、公開講座、再チャレンジ支援講座参照）。

5. 学習・子育て支援

(1) 親子通所センター「子育て広場 “あい・あい”」

ボランティア活動の項（p.235）で示したように、図書館アートギャラリー、あい・あい Farm（圃場）、須磨離宮公園を利用して行っている（『子育てひろば「あい・あい」』参照）。

(2) 子育て広場 “あい・あい” フェスティバル

2005年に親子通所センター「子育て広場 “あい・あい”」を始めてから4年目の2008年9月28日、第1回子育て広場 “あい・あい” フェスティバルを開催した。親子通所センターの意義を地域の親子や関係機関に働きかけると共に、学生の幼児教育への意欲と実践力のある保育者養成を目指して本学体育文化ホールで開くもので、教育学科幼児教育コースが主催し、170家族505名と学生250名が参加した。

(3) 算数・数学クリニック

2006年10月から、文学部教育学科の「算数科教育法」担当の准教授の研究室に「神戸女子大学算数・数学クリニック」が開設されている。2009年度から「特別支援教育」が学校教育に位置付けられ、原則的には個別に対応するシステムが学校に完備されるようになったが、学校の対応や支援だけでは不十分な子どもや親の要望に応えるものとして、算数・数学の学習につまずいている地域の小・中・高校生を対象に学習支援と地域の学校及び本学を卒業して教職についている先生との共同研究を行っている。開催は週1回程度、同准教授を中心に学生も支援に加わり、3年間で延べ800名が支援を受けている。また、地域の小学校・中学校や本学卒業生の先生との授業研究も2008年2月で第6回を数えている（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、地域貢献活動、算数・数学クリニック）。

(4) ひらめき☆ときめきサイエンス

独立行政法人日本学術振興会による、2007年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に神戸女子大学のプログラムが採択され、「オリーブオイルで「元気」を研究するーポリフェノールからホルモン、DNAまでを体験ー」が開催された。この大学の研究を体感するためのプログラムは、2007年9月24日、家政学部管理栄養士養成課程の研究室・実験室を使って行われ、中学生1名、高校生40名、計41名の生徒と引率

教員と保護者6名が参加した（神戸女子大学ホームページ：地域連携・生涯学習、ひらめき☆ときめきサイエンス参照）。

[点検・評価—長所と問題点]

本学は大学の施設・設備を地域社会に学術研究、健康づくり、生涯学習、再教育、学習・子育て支援等の場として積極的に提供している。特に、土曜日、日曜日の休日には大学を利用した事業が、ほぼ毎週行われている。

社会が高齢化し、高齢者の健康や介護に関心が高まっている中、「ADL体力アップ講座」、「フィットネス体操教室」、「あなたの体力発見」等体育文化ホールで開催される教室には、地域の中高年を中心に連続して参加する人が多い。また、地域の住宅地に住む65歳以上の1人暮らしの方を招いて月1回学生食堂特別室で行われている「ふれあい給食サービス」は、1人暮らしの高齢者が楽しみにしている行事の一つである。これは、家政学部をもつ女子大学の特徴を生かしたユニークな取り組みである。

生涯学習や再教育（職業教育）の場としては、公開講座を中心に須磨キャンパス、三宮教育センター、ポートアイランドキャンパスで文化・教養・実用講座が開催され、講座数、参加者共に増加している。

学習・子育て支援としての親子通所センター「子育て広場“あい・あい”」、「算数・数学クリニック」は、全国的に見てもユニークな取り組みである。「子育て広場、“あい・あい”」は、図書館アートギャラリー、学内に設置した「あい・あいFarm」、須磨離宮公園を使って、地域の親子の子育てを支援すると共に、学生には保育の実践教育の場になっている。また、「算数・数学クリニック」は、算数・数学の学習につまずいている小・中・高校生が大学の研究室に通ってきて、そのつまずきの解決に当たるもので、3年間で800名を超える生徒が大学で特別支援教育を受けていることになる。

[今後の改善・改革に向けた方策]

大学の施設・設備を利用して地域社会に提供しているサービスには一過性のものもあるが、定期的に継続して行っているものが大半である。これらのサービスを持続的に発展していくためにはどうしたら良いのか。多くの事業は、組織として取り組んでいるように見えても、実際は個人や少数の人が核になって運営している場合が多い。個人の努力には限界がある。継続して発展させていくためには、後継者の養成とそれを運営する組織を強固なものにすること、大学の財政面からの援助が必要である。

B. 企業等との連携

選択・寄附講座、寄附研究部門の開設状況

選択・大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策

[現状の説明]

寄附講座、寄附研究部門は開設されていない。大学・大学院とそれ以外の社会的組織・研究機関との教育研究上の連携は、個々の事例としては、例えば、家政学研究科と兵庫県工業技術センターとの共同研究等、さまざまなものがあるが、大学組織として戦略的に連携策が練られているわけではない。

企業への技術移転等を促進するために、科学技術振興機構（JST）が認定するコーディネー

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

ターを1名設け活動中であり、J S Tの地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」に2006年、2007年と2年連続で採択された（『教育研究部 Newsletter』第5号参照）。

[点検・評価—長所と問題点]

女子大学でJ S Tのコーディネーターを設けていることは特徴的であろう。この活動により、イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」に2006年、2007年と2年連続で採択されたが、例えば全国的にみて2007年度に採択された女子大学は、神戸女子大学を除くと日本女子大学、京都女子大学、奈良女子大学の3校しかない。企業との共同研究、受託研究は年5件程度であり、専任教員数125名（『大学基礎データ表19』）を考慮するとやや少ない感があるが、コーディネーターをより積極的に活用することで、増加する可能性がある。企業との共同研究、受託研究は、現状では教員個人が対応しており、契約締結や履行に関するトラブルも将来的には予想されるので、共同研究、受託研究の活性化と合わせて、コーディネーターを中心にした組織的対応が望まれる。

[今後の改善・改革に向けた方策]

産学連携に係る全学的な組織を立ち上げる。前述のコーディネーターをここに位置付け、活動をより活性化させる。産学連携に係る組織の役割は、①知的財産の保全と有効利用、②企業や地方自治体との共同研究或いは受託研究の促進、③大学の持つ知的シーズの発掘と発信、④産学連携に伴う倫理綱領の整備等である。ただしこの組織は独立である必要はなく、社会への貢献や地域連携或いは外部資金獲得といった、より包括的業務の一部として活動したほうがより効果的かもしれない。このように、まずこの組織の全学的な位置付けを明確化し、今年度中に産学連携に係る体制を整備することを検討する。

選択・企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況

[現状の説明]

最近5年間の共同研究、受託研究は表7-7（p.255）のとおりである。2004年度8件（6,850千円）、2005年度11件（9,430千円）、2006年度10件（9,125千円）、2007年度3件（3,002千円）、2008年度（6月末現在）5件（3,650千円）であり、その多くは家政学部の教員が行っている。

[点検・評価—長所と問題点]

本学で行われている共同研究・受託研究は、教員と企業等の個人的な結びつきのもとに行われているものが多いが、近年は企業や財団が提供する競争的研究資金を獲得し研究を推進するケースも見られるようになってきている。その中で、準研究助手や大学院生、P Dが、若手対象の研究資金を獲得し研究を進めているケースもみられ、若手研究者の研究意欲は高い。

また、共同研究・受託研究に関する受け入れ体制に関しては、既に概ね整備済みである（『神戸女子大学民間企業等学外共同研究規程』参照）。

[今後の改善・改革に向けた方策]

企業との共同研究・受託研究は、専門分野によってやりやすい場合と難しい場合があるが、今後は、家政学部以外の学部においても、積極的に進める方向である。

表 7-7 共同研究・委託研究費一覧

氏名	所属	研究課題	金額 (円)
■ 2004 年度：8 件 (6,850,000 円)			
梶原 苗美	家政学部 教授	タンパク栄養と漢方薬の栄養生理学的研究	600,000
山根 千弘	家政学部 准教授	セルロースに関する研究	1,500,000
梶原 苗美	家政学部 教授	亜鉛媒体含有食品の栄養生理学的（血液流動性、抗肥満作用、及び抗糖尿病作用）評価、亜鉛化合物の吸収率の測定、及び papaya/Zn 加工食品のレシピ提案	1,000,000
瀬口 正晴	家政学部 教授	モチ小麦澱粉粒の高次構造の研究	700,000
高橋 利禎	家政学部 教授	低置換度ヒドロキシプロピルセルロースの構造と性質に関する研究	500,000
上田 充夫	家政学部 教授	密閉処理浴中の薬剤反応・吸着の定量化装置の開発	1,050,000
松崎 喜良	文学部 准教授	大人用オムツについての市場調査	500,000
平田 耕造	家政学部 教授	被服の生理学的研究	1,000,000
■ 2005 年度：11 件 (9,430,000 円)			
梶原 苗美	家政学部 教授	タンパク栄養と漢方薬の栄養生理学的研究	600,000
梶原 苗美	家政学部 教授	「飲む健康バルサミコ酢飲料」の栄養生理学的機能効果に関する研究	1,000,000
平田 耕造	家政学部 教授	サポートパンティーストッキング、ハイソックスの着用時圧力の生理学的快適性に関する研究	700,000
土江 節子	家政学部 教授	IH トレイカートによるクックチル食品の加熱に関する研究	630,000
上田 充夫	家政学部 教授	密閉処理浴中の薬剤反応・吸着の定量化装置の開発	1,050,000
田中 香利	ポストドクター	撥水加工によるスポーツウエアの吸水性低減が体温調節反応におよぼす影響	400,000
山根 千弘	家政学部 准教授	セルロースに関する研究	500,000
上田 充夫 他 3 名	家政学部 教授	女性インナーウェアの被服学的解析と新商品開発	1,050,000
河邊 聡	家政学部 教授	カナディアンインターナショナルスクール生駒研修センターの改修設計に関する研究	1,500,000
平田 耕造	家政学部 教授	温熱生理学に関する研究	1,500,000
松崎 喜良	文学部 准教授	紙おむつが環境に与える影響に関する研究	500,000
■ 2006 年度：10 件 (9,125,000 円)			
梶原 苗美	家政学部 教授	天台烏薬並びに天台烏薬葉の血液流動性に及ぼす影響の検討	600,000
上田 充夫	家政学部 教授	密閉処理浴中の薬剤反応・吸着の定量化装置の開発	525,000
山根 千弘	家政学部 准教授	セルロースに関する研究	500,000
竹中 優	家政学部 教授	機能性食品における抗老化作用の評価法の確立・検討	1,000,000
瀬口 正晴	家政学部 教授	小麦粉全般について	500,000
田中 紀子	家政学部 教授	酢酸による動物の内臓脂肪低減メカニズム並びに筋線維形態変化の検証	1,000,000
堀田 久子	家政学部 教授	ビフィズス菌増加作用を有する食物繊維の開発	2,000,000
土江 節子	家政学部 教授	栄養指導システムの構築（栄養分析に基づく、高齢者に適した食事モデルの開発）	1,000,000
梶原 苗美	家政学部 教授	「食生活と健康」に関する研究及び教育支援	500,000
瀬口 正晴 (原 奈津子)	家政学部 教授	セルロース粒子のサイズの違いがもたらす低カロリーパン製造への影響について	1,500,000
■ 2007 年度：3 件 (3,002,000 円)			
梶原 苗美	家政学部 教授	タンパク栄養と漢方薬の栄養生理学的研究	300,000
狩野 百合子	家政学部 准教授	オリーブオイルで「元氣」を研究する ーポリフェノールからホルモン、DNA までを体験ー	702,000
後藤 昌弘	家政学部 教授	ランダム・セントロイド最適化法を用いた新調理システムによる健康調理条件の探索	2,000,000

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

第15章

基礎データ

大学評価
(認証評価)
結果

■ 2008年度：5件（3,650,000円）※2008年6月末現在			
上田 充夫	家政学部 教授	トランスグルタミナーゼを用いた繊維加工法	1,050,000
木村 あい	健康福祉学部 講師	介護福祉士養成教育におけるロールプレイの学習効果 ～利用者寄り添い、向き合う介護の実践を目指して～	200,000
山根 千弘	家政学部 教授	アモルファスセルロースのナノ粒子からなる透明ゲルの構造的特徴	700,000
梶原 苗美	家政学部 教授	「食生活と健康」に関する研究及び教育支援	500,000
梶原 苗美	家政学部 教授	漢方薬構成生薬並びに食品応用生薬・天然物由来の食品素材の血液流動性に及ぼす影響の検討	1,200,000

選択・特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況

選択・発明取扱い規程、著作権規程等、知的資産に関わる権利規程の明文化の状況

[現状の説明]

特許については、2003、2004、2005年度の3年間で、本学による出願が1件もない状況であったが、2007年度と2008年度には、それぞれ1件ずつ出願があった（2008年度についてはこれからの出願となる）。特許出願がなかった原因の一つには、知的財産に関する規程がなく、神戸女子大学を出願人として出願できなかったことにある。それまでは教員が個人名或いは企業と共同で出願していたと推測できるが、過去の実態は把握できていない。

現在は、大学における知的財産に関する規程が整備されたことで、特許出願を研究業績として考慮するようになり、その知的所有権を大学として守っていく姿勢がほぼ確立できた（『学校法人吉学園知的財産取扱規程』参照）。

[点検・評価—長所と問題点]

知的財産に関する規程が整備されたので特許に関する体制は基本的に整備されたと言える。ただし、推進状況は、まだ始まったばかりで、更に実質的な体制の整備が必要であろうと思われる。

[今後の改善・改革に向けた方策]

大学から発信される知的財産をいかに地域社会に役に立つように実現させていくかが今後の課題である。そのためには、知的財産を技術に移転させる目的のTLO（Technology Licensing Organization/技術移転機関）等の組織を考える時期に来ている。